［　事例２　］

ムダな動きを徹底排除し危険を感じたら器具を開発

㈱ハルツ

プレス加工用の金型製作を行うハルツ（横浜市金沢区）は、基本に忠実な仕事と労働安全を最優先する企業である。工場内では金型メーカーには珍しく全員が着帽。危険を感じたら器具を開発する方針を徹底し、人には重い物は持たせず歩く距離も極力、短くなるよう配慮している。トライ用のプレス機械に至っては、機械メーカーも驚くほどの安全性と利便性を追求。社内で開発した器具は自社で使うことを前提にしたものだが、工場内にある器具を見た外部の人が欲しがるケースも増え、器具によっては今後、本格的な外販に乗り出す考えである。

創業者の教えを今も貫く

同社は1973年にスチール家具メーカーで経験を積んだ近藤満氏（近藤大輔社長の父親）が横浜市磯子区で創業。OA機器、ディスプレイ、家電、住宅機器、自動車など多品目の金型を製作した。1 mm前後の薄板加工用の金型づくりを得意とし、中でもコピー機の旺盛な需要により一時代を築いた。時代とともに取扱い分野は変わったが、試作から量産までの多岐にわたるプレス用金型づくりの基本路線は変わっていない。

強みは「お客様目線で誠心誠意、金型のつくり込みをすること」と近藤社長は言う（図1）。ひと昔前にはモノづくり業界では金型メーカーが納期を決め、遅れるのが当たり前という時代もあったが、過去から現在に至るまで、同社は一度顧客と交わした約束は守り切る方針を徹底。そうした姿勢が多くの顧客から共感を得てきた。「正直言って『当たり前に仕事をこなす』

会社概要

会社名：㈱ハルツ
代表者：近藤大輔
所在地：〒236-0004
横浜市金沢区福浦町 2-7-25
設　立：1973年
従業員数：30名
事業内容：プレス金型、試作品の設計・製作・販売

図１　近藤大輔社長

図２　羽鳥裕教営業部長